

大臣みな藤氏にてこそおはしますに、この北の政所ぞ源氏にて御さいはひきはめさせ給ひたる。おとしの御賀のありさまなどこそ、みな人見き、給ひし事なれど、なをかへすくもいみじく侍りしものかな。略○中大臣○道の御むすめ三人后にて、さしならべ奉らせ給ふ事あましく、けうのことなり、もろこしには、むかし三千人の后おはしけれど、それはすぢもたづねで、たかたちありときこゆるを、となりの國までえらびいだして、その中にやうきひとときは、あまりときめぎすぎでかなしき事あり、王昭君はえびすの王に給りて、胡のくにの人となり、上陽人は楊貴妃にそばめられて、御門に見えたてまつらで、春のゆき秋のすぐる事をも、えらすして、十六にてまいりて、六十までありけり、かやうなれば、三千人のかひなし、わが國には、ならの后こそおほすべけれど、代々に四人ぞたて給ふ、この入道殿下のひとつかどばかりこそは、太皇太后宮、皇后宮、中宮三所出おはしたれ、まことにけうくの御さいはひなり、皇太后宮一人のみこそは、すぢわかれ給へりといへども、それも眞信公藤原忠平御すゑにおはしませば、それよそ人とおもひ申べき事は、えかあれば、たゞよのなかは、このとの、御ひかりならずといふ事なし、この春こそは、うけ給ひにしかば、いと、たゞ三人の后のみこそは、よにおはしますめれ、ことにふれてあそばせる、えわざかなど、居易や、あか人、人丸、みつね、つらゆきといふ人も、なとておもひよらざりけん、とこそおほえ侍れ、

〔榮花物語十五〕

殿の御まへ、

藤原道長世えりはじめさせ給ひてのち、御門は三代にならせ給わが御

世は廿三四年ばかりにならせ給に、みかどわかうおはしますときは、攝政と申おとなびさせ給おりは、關白と申て、おはしますに、このごろ攝政をも御一男たゞいまの内大臣通頼に讓きこえさせ給て、わが御身は、太政大臣の位にておはしますを、略○中かゝる程に、御心ちれいならずおほさるれば、略○中いかにくとのみ覺しなげかせ給、御物のけどもいとおどろく、えう申すと、れ